

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・近代科学の成立とそれを相対化して新たな科学の姿を描き出そうとした寺田寅彦の研究の意味を論じた評論からの出題。
- ・本文の分量は昨年度より一頁ほど減少している。昨年度に引き続き、すべて記述説明であり、設問数も五問と変化はみられない。ただし、解答欄の合計行数は昨年度(17行)に比べ2行増え19行となった。
- ・本文の分量の減少、記述分量の増加はみられるが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	金森 修 『科学思想史の哲学』
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 直前の単純な理解に対する、より「複雑」な理解を対比的にまとめて説明する。
		問二	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部以降の内容から、「実験」が「経験」をどのように操作し、どのように観察するかを読み取る。
		問三	記述式	標準	傍線部の意味を説明する問題。(解答欄4行) 寺田寅彦の物理学研究の特徴を把握し、「惜しむかのよう」という見方の根拠となるものを示す。
		問四	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 「し損ない」という表現から、トレスアン伯爵が科学研究の水準に達していないことを示す。
		問五	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄5行) 「往復運動」の内容を明らかにし、その可能性を本文末尾の「オールタナティブな姿」として説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・評論であれ随筆であれ、文章の主題や筆者の主張を全体からの確に把握するとともに、個々の文脈を正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問の意図を踏まえ、理解した内容を簡潔かつ的確に表現してみる訓練が欠かせない。
- ・漢字問題は出題されていないが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・著名な詩人二人による、詩の生と死をめぐる対話からの出題。対話を本文とする出題は近年では例がなく、受験生に多少の戸惑いはあったかもしれないが、語られている内容はそれほど難解ではない。
- ・解答行数が昨年よりも1行減少。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	大岡信・谷川俊太郎『詩の誕生』
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	対話	問一 問二 問三 問四 問五	記述式 記述式 記述式 記述式 記述式	標準 標準 標準 標準 標準	傍線部の理由説明問題。(解答欄2行) 傍線部の内容説明問題。(解答欄2行) 傍線部の内容説明問題。(解答欄2行) 傍線部の内容説明問題。(解答欄4行) 傍線部の理由説明問題。(解答欄5行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・昨年の文系二では小説からの出題だったが、本年は対話が出題されたことも踏まえ、評論や随筆を含め、できるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題

試験時間

120分

江戸時代後期の国学者、藤井高尚の歌論からの出題であった。

- ・三年連続した漢文・漢詩(返り点付き)はなかった。
- ・昨年はなかったが本文に和歌があり、設問にも和歌の一部が出題された。
- ・解答数は昨年と同じで五つであった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『三のしるべ』 (藤井高尚)
頻出度合 ・的中等	出典・箇所ともに稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1100字(前年は約650字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
目	歌論	問一	記述式	やや難	説明問題。「おろかなる情」について、どういう「情」かについて説明する。抽象的に書くのか、直前の和歌を踏まえて具体的に書くのか、判断に迷う。(解答欄2行)
		問二	記述式	標準	現代語訳問題。「指示語の内容を明らかにして」、「『みな月の望にも消えぬふじのしら雪』も現代語訳すること」という条件が付いていた。「それ」の指示内容の具体化、「みな月」「望」「たらんに」「かいなで」の訳出がポイント。「かいなで」は難しいと思われる。(解答欄3行)
		問三	記述式	標準	現代語訳問題。「『さるからに』の内容を明らかにして」という条件が付いていた。「さるからに」の具体化、「見えぬにこそ」の省略を補った訳出がポイント。(解答欄3行)
		問四	記述式	やや難	説明問題。傍線部について「筆者は何を問題視している」かについて説明する。赤人の和歌についての注釈者の間違いについて説明する。(解答欄2行)
		問五	記述式	標準	説明問題。傍線部「いにしへのよき歌」について、筆者がどのようなものと考えているかを本文全体を踏まえて説明する。傍線部の後に「いにしへよりよき歌」の表現があり、その部分の内容も踏まえる必要がある。(解答欄4行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・三年連続して珍しいジャンルからの出題で、いろいろな時代・ジャンルに慣れておく必要がある。
- ・それ以前は有名出典からも出題されているので、『源氏物語』を代表とする中古の典型的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・今回和歌の一部の現代語訳が出題された。今回は修辞のないわかりやすい和歌であったが、これまでは修辞のある和歌も出題されているので、修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。
- ・今年出題されなかったが、ここ数年は漢文・漢詩(返り点付き)の訳や意味の設問が出題されているので、センターレベルの漢文を読む練習は必ずしておく必要があるだろう。
- ・現代語訳が二題出題されたが、どちらも指示内容を具体化する必要があった。その点からも本文全体の現代語訳ができるかどうか京大文系古文の根本である。現代語訳をする練習がいちばんに望まれる。